

英語科学習指導案

日 時 平成27年6月4日(木) 公開授業Ⅱ
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
3年D組39名
会 場 1A3A教室
授業者 芳 門 淳 一

1 単元名 LESSON 3 “*Rakugo Goes Overseas*” (NEW CROWN ENGLISH SERIES 3)

2 単元について

(1) 生徒観

これまで生徒は、2年間の英語学習において様々な英文に触れながら、まとまった英文の内容を理解したり、それについて自分の考えを述べたりする学習を行ってきた。また、それぞれの単元において、物やことがら、人などについて、まとまった紹介文を話す、書くという活動にも取り組んできた。しかし、これまではどちらかと言えば、事前準備をして英文として完成したものを発表する場面の方が多かった。そのため、本単元ではゴールに「なりきりインタビュー」の表現の言語活動を据えながら、即時的に答えたり、反応したり、相手の考えや思いを引き出すように会話を続けたりする力を養いたいと考える。本単元のようなまとまったインタビュー形式の文章を読んだり、インタビューした内容をまとめて文章化する活動は初めてであるが、単元を通して、インタビューを継続させる力やインタビューした内容を整理し、第三者に伝える力も養いたいと考える。

また、本単元で学習する「現在完了形」については、継続用法を前単元で学んでいる。ある過去の事実を表現する「過去形」に対して、「現在完了形」は現在を含むある過去の時点からの時間の幅を表現しているものであり、生徒にとっては、表現されていることや時間軸をイメージしにくいことも考えられる。LESSON2の生徒の振り返りを見ると、単元で扱った「継続」、「期間」、そして「現在を含む時間の幅」を自分の中にイメージできている生徒は多いものの、それをイメージできずに、「過去形」と「現在完了形」の表現の適切な活用に自信がもてない生徒もいる。したがって、時間の幅について、図示などしながら視覚的にイメージできるよう工夫し、本来「現在完了形」という表現がもつ意味合いを、これまでの「過去形」との比較から生徒がイメージしやすいように指導にあたりたいと考える。また、本単元でも言語材料の使用場面を適切に指導し、繰り返し活用させることで定着させたいと考える。

表現の言語活動としては、昨年度から My Dream や国の紹介、夢のロボット等、スピーチや英作文といった活動を行ってきた。その結果、ただ単に「英語で話す」「英語で書く」という意識ではなく、「相手を意識して話す」「相手を意識して書く」という意識の向上、表現活動に対する積極性や意欲の向上が芽生えつつある。しかしながら、正しい英文や文法にこだわりすぎて、メモだけを頼りに英語を活用すること、即時に話したりすることには、まだ抵抗がある生徒が多い。また、適切な声量や抑揚、間の取り方、聞き方にも課題が残る。インタビューという題材を通して、即時的に反応して答えたり、話したりする力、さらには上に述べたような課題が少しでも改善されるように、よりよいモデルの提示や自分のインタビューを客観的に振りかえらせるなど工夫しながら指導していきたい。

(2) 教材観

本単元では言語活動として、インタビュー活動を通してプロフィール表をまとめ、紹介記事を書くという活動が組み込まれている。そこで自分のあこがれの人物になりきり、生徒同士でインタビュー活動を行わせることとしたい。自分たちのことばで表現するということは、生徒たちの興味・関心や意欲を喚起するものと考えられる。また、自分のあこがれの人物になりきらせることで、単なる一問一答のやり取りではなく、相手を意識して想いや考えを少しでも引き出せるようなものにしたいと考える。

また、題材内容としては、日本の伝統文化である落語を取り扱っている。落語は生徒にとっては馴染みがあるものとは言いがたく、じっくりと観賞したことのある生徒はほとんどいない。そのため、

できるだけ視覚教材を有効に活用しながら、授業を展開したい。特に、落語を日本の伝統として世界に発信している英語落語家大島希巳江インタビュー記事や小唄を読むことを通して日本の伝統文化の良さに触れ、それを世界に発信することから英語の重要性を感じさせたい。さらに、言語活動では「なりきる」ことを意識させ、落語の小唄での一人二役やなりきりインタビューを行いたい。

言語材料としては、行ったことのある場所や回数を尋ねる時の表現やたった今終了したことを伝える「現在完了形」(経験用法・完了用法)を扱う。経験や完了、継続を表す「現在完了形」を使った文は、今までの経験を尋ねたりとインタビューを行う場面では効果的に使うことができ会話に幅がでると考える。したがって、それらの表現や言い方についてはパターンプラクティス等を活用しながら定着させたい。

本単元の言語活動の充実のために、「聞くこと」では「まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること」、「話すこと」では「つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること」、「書くこと」では「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」にも意識させたい。「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の技能の統合を意識した指導を心がけたいと考える。

なお、本題材は学習指導要領の次の目標に対応する。

ア	聞くこと	(ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。 (エ) 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。
イ	話すこと	(イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。 (エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。

(3) 学びの本質(英語科)について

本校英語科の最終的な目標は「英語を活用して主体的にコミュニケーションを図ることができる生徒の育成」である。生徒が学びに対して目的をもって主体的に取り組み、継続させ、スパイラルに学習を積み重ねることで最終的な生徒の目指したい姿へと近づくと考え。本研究では特に次の2つの視点に重点を置き、指導実践と改善にあたる。

- | |
|---|
| ① コミュニケーションツールとして実際に使用できる実感をもちながら知識を意欲的に習得する生徒の育成 |
| ② 必要な時に即時に表現を口にしたり、状況に合わせて柔軟に習得した知識・表現を活用する生徒の育成 |

この2つの力は密接に関わっているものである。土台となる基礎基本としての知識を定着させていくことはもちろん大切であると同時に、実際のコミュニケーションにおいてはローカルエラーよりも、いかにして関わろうとするか、関わり続けようとする態度が重要である。教師も生徒も正確性を意識するあまり、間違いを恐れる消極的な態度や雰囲気を作ってしまうのは、言語の学習にはマイナスとなる。そこで、教師の「正確さと流暢さ」のバランスへの留意が大事な視点となる。英語力として共存している知識とコミュニケーション能力の両面を大切にしながら指導に当たりたい。基本的には、学習する表現をその時間や単元に限らずに繰り返し扱うことで、生徒の発話や筆記の量は増える。また、生徒の興味関心に訴える課題や表現を使用するための適切な場面を設定することで、単なる繰り返しではなく、必然性を伴った表現として定着が図られると考える。様々な表現を、場面や必要に応じて使用する経験を積み重ねることで、生徒は表現の幅や量を増やすことができ、それに伴いより自信をもって表現する態度を身に付けていくものと考え。

表1 3学年の年間テーマ“English for me”の表現活動に至るまでの学習デザイン

時期	主な行事	総合学習	単元	主な言語材料	主な題材	“English for Me”へのデザイン		
前期 (四月～九月)	入学式	オリエンテーション「今年度の英語学習について」	Lesson1	受動態	ことばの持つ力	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> “English for Me” </div> <ul style="list-style-type: none"> ・相手意識 (Writing) ・1,2年既習事項 		
	対面式		My Favorite Words		私の好きなことば		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> “My Favorite Words” </div>	
	写生会		Lesson2	現在完了(継続用法)	異なる自然 異なる文化 インタビューを聞こう		<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識 (Speaking) 	
	市中総体 学習旅行		Lesson3	現在完了(経験用法) 現在完了(完了用法)	日本の伝統 文化の発信 先生にインタビュー		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> “なりきりインタビュー” </div> <ul style="list-style-type: none"> ・相手意識 (Speaking) ・インタビューのテクニック ・既習事項の活用 	
			県中総体 夏季休業	Lesson4	S+V+O+C It is ~for A to do構文		広島原爆 報道番組に挑戦 大切なことを伝えよう	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> “私の願い” 意見文(平和)【Writing】 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の平和を考える ・世界の中における日本 ・主張の仕方
	市中陸上		Let's read 1 Learning from Nature	読み物	説明文を読む		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> “様々な国の生活スタイル” 【Reading】 </div>	
	スポーツ大会		Lesson5	関係代名詞	世界の家と生活文化 日本紹介			
	後期 (十月～三月)		文化祭	Lesson6	現在分詞の後置修飾 過去分詞の後置修飾 接触節		アメリカの公民権運動 尊敬する人物を紹介しよう	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> “My Hero” 尊敬する人の紹介文 </div>
			冬季休業	Lesson7	間接疑問文 want +人 +to do		創意工夫と社会貢献 チャットを楽しもう	<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識(Writing) ・わかりやすく伝える ・関係代名詞や後置修飾の活用
			本校入試	Lesson8	how to~ what to~		英語を学ぶことの意味 未来の自分へ手紙を書こう	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> “English for Me” 【Reading】 </div>
私立高校入試		Let's read 2 A Moment of Peace	読み物	物語文を読む	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> “English for Me” 英語学習と今後の自分(スピーチ) </div>			
公立高校入試		卒業スピーチ	3年間のまとめ	想いを伝える				
	卒業式				<ul style="list-style-type: none"> ・相手意識(Speaking) ・3年間のまとめ ・英語学習から得たこと ・今後の自分 			

テーマ『新しい社会に生きる』とは、どのようなことか
 三学年 生き方を考える

3 単元の指導目標

(1) 指導目標

- ①なりきりインタビュー活動を通して、想いや感情など相手を意識した受け答えができるようにする。
- ②相手に伝わるように、抑揚やジェスチャーに気をつけて役になりきることができる。
- ③「現在完了形」(経験用法・完了用法)を用いた文の意味・構造を理解させる。

(2) 評価規準

外国語表現の能力	①既習事項を活用し、相手を意識した質問や受け答えを行いながらインタビューを行うことができる。 ②相手に内容が伝わるように、抑揚やジェスチャーに気をつけて伝えたり、演じたりすることができる。
言語や文化についての知識・理解	①「現在完了形」(経験用法・完了用法)を用いた文の意味・構造を理解している。

4 単元の指導計画および評価計画

時間	主な学習内容と学習活動	評価規準	評価方法
1	○本単元で学ぶ題材や身に付ける文構造を知る。 ・とびらのページを用いて、オーラルイントロダクションを用いながら、着物の女性が何をしているか、会場の人たちがなぜ笑っているかなどについて述べ合う。 ・本単元で身につける技能や理解する内容を知る。 ・本単元のゴールの表現活動を確認する。 ○対話文の内容を理解する。 ・話題は何なのかを確認し、エマが伝えたいことを読み取る。 ・教科書本文を音読し、暗唱する。・会話の続きを考える。		
2	○「現在完了形」(経験用法)を用いた文の意味・構造を理解する。 ・「現在完了形」(経験用法)を用いて、自分の経験を伝えたり相手の経験を尋ねたりする練習をする。 ・スミス先生が行ったことのある場所を聞きとる。 ・ペアでお互いが行ったことのある場所をたずね合う。 ・尋ねたことをもとに、第三者に伝える英文を作成する。	言知①	後日ペーパーテスト
3 ・ 4	○「現在完了形」(完了用法)を用いた文の意味・構造を理解する。 ・「現在完了形」(完了用法)を用いた文の構造を理解する。 ・「現在完了形」(完了用法)を用いて、行動や状況を説明する練習を行う。 ・教科書本文を通して、エマのおこなった小断の内容を理解する。 ・教科書本文を音読練習し、暗唱する。	言知①	後日ペーパーテスト
5	・英語の落語を視聴する。 ・教科書外の落語の小断を読む。		
6 本時	○なりきりインタビューを行う(1/4) ・ <i>Rakugo Goes Overseas</i> を視聴し、インタビューについての概		

	<p>要を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュアーの視点に立ち、<i>Rakugo Goes Overseas</i> のインタビュー記事を読む。 ・インタビュアーとしてどんな工夫ををしているか読み取る。 ・インタビュアーの工夫を参考にしながら、なりきりインタビュー①（インタビュアーの意識）を行う。 	表①	練習の観察 ICレコーダーの音声
7	<p>○なりきりインタビューを行う（2／4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューの受け手側に立ち、<i>Rakugo Goes Overseas</i> のインタビュー記事を読む。 ・インタビューに答える際、どんな工夫ををしているか読み取る。 ・どんなことに気をつけてインタビューに答えればよいか考える。 ・相手を意識した受け答えになるように、なりきりインタビュー②（受け手側の意識）を行う。 	表①②	練習の観察 ICレコーダーの音声
8	<p>○なりきりインタビューを行う（3／4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー項目の整理。 ・個人でインタビュアーと受け手の練習をする。 ・ペアでインタビュー練習を行う。 ・なりきりインタビュー③を行う。 ・インタビューを振り返り、うまくできなかったところを確認し、付け加えや調査、練習を行う。 	表①②	練習の観察 ICレコーダーの音声
9	<p>○なりきりインタビューを行う（4／4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なりきりインタビューの撮影を行う。 ・友達のインタビューからの学びを記入する。 <p>※ Mini-Project に関するインタビューの整理と紹介記事の取り扱いは宿題として扱い、後日提出させる。</p>	表①②	VTR
10	<p>○文法のまとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「現在完了形」（経験用法・完了用法）を用いた文の構造を確認する。 ・不定詞の副詞的用法（感情の原因・理由）の再確認をする。 ・単元文法テストを行う。 	言知①	単元ペーパーテスト

5 本時について

(1) 主題 「なりきりインタビューをしよう

～インタビュー記事を参考に項目を考えインタビューアの練習しよう～

(2) 指導目標

インタビュー記事をインタビューアの視点で工夫されている点を読み取り、それをもとにインタビューの項目を立て、インタビューをすることができるようにする。

(3) 本時の評価

①本時では形成的評価は行うが、総括的評価は行わない。後日パフォーマンステストにより評価を行う。

②本時は単元の中では6時間目にあたる。本時の指導目標は単元における外国語表現の能力の指導目標（①既習事項を活用し、相手を意識した質問や受け答えを行いながらインタビューを行うことができる。②相手に内容が伝わるように、抑揚やジェスチャーに気をつけて伝えたり、演じたりすることができる。）と同じである。ただし、本時のみでこの目標を達成するものではない。あくまでも単元の終了時にここまでの力を付けさせたいと考える。そこで次時以降（9時間目）のパフォーマンステスト（VTR撮影）により総括的な評価は行うこととする。本時での形成的な評価として、外国語表現の能力の到達段階を以下のように捉えている。

外国語表現の能力単元目標に関しての形成的評価段階のとらえ	
前時まで (GETの段階)	・「今まで行ったことのある場所と回数」について英文でたずねることができる。 ・「現在完了形」(経験用法・完了用法)の学習をふまえ、自分のこれまでの経験や完了用法の使用される場面の英文を2文～3文程度書くことができる。
6時間目まで (本時)	・インタビュー記事のインタビューアが相手の思いを引き出すために行っている工夫について読み取ることができる。 ・インタビュー記事の工夫点を参考にしながら、インタビューアとしてresponseを意識したインタビューを行うことができる。
次時	・インタビュー記事のインタビュー受け手側の配慮や工夫について読み取ることができる。 ・インタビュー記事の工夫点を参考にしながら、インタビューを行うことができる。
9時間目	・既習事項を活用し、相手を意識した質問や受け答えを行いながらインタビューを行うことができる。 ・相手に内容が伝わるように、抑揚やジェスチャーに気をつけて伝えたり、演じたりすることができる。

(4) 指導の構想

本時はLESSON3のUSE Readの1時間目(単元6/11時間目)である。本単元のゴールの言語活動「なりきりインタビューをしよう」を意識させながら、教科書本文のインタビュー記事を扱う。既習表現と単元の新出表現をうまく活用させながら、単元のゴールのインタビューにつなげさせたいと考える。

Routine Workではペア活動の新出語のインプットから1 Minute Talkを行う。インプットではできるだけ素早く答えること、文章を即時に考えることを意識させる。また、1 Minute Talkでは条件を与えることで、形式的にならないようにするとともに、即興で会話を続けることをねらいとしている。

本時の主な学習内容と活動は、インタビュー項目を考えることと、インタビューアの練習を行

うことである。インタビュー項目を考える場面では、ただ単に項目を並べるのではなく、相手の考えや思いを引き出すような流れをイメージさせたいと考える。そのために、インタビューの視聴を通して、話のおおまかな流れや概要について把握させる。また、教科書本文のインタビュー記事の扱いは、インタビュアーの視点に重きを置き、相手の思いや考えを引き出すために、どのような工夫がなされているかに絞って黙読を行い、それをもとに思考させたいと考える。インタビューの練習場面では個人の練習からペアでの模擬練習を行う。英文に書きおこしたものでインタビューするのではなく、実際の会話に近くなるようにメモ程度のものからインタビューを行わせたいと考える。また、1回目の模擬インタビュー後に振り返りを行わせる。相手からインタビューで聞かれたことを確認するのはもちろん、自分自身のインタビューがどうであったか、ICレコーダーを使い振りかえらせ、学びを自覚化させたい。このような活動を繰り返すことで、自分自身や友人の成長に気づき、達成感を味わい、より英語を活用しようという姿勢の向上につながると思う。

活動中は既習事項も含め、エラーが予想されるが、必要に応じて互いに修正させたり、教師によるリキャスト等を効果的に取り入れ、正確さと流暢さのバランスにも気をつけさせていきたい。また、単元の言語材料は「現在完了形」であるが、指導の際のポイントとして、無理に「現在完了形」を使用するのではなく、自然な流れの会話を意識させながら、「現在完了形」の使用場面や必然性を大切に使用させるような指導を心掛けたいと考える。

(5) 本時の展開

段階	学習内容及び学習活動	時間	■「学びの本質」との関わり
導入	0. 3分前学習 ・英語の歌を歌う		
	1. あいさつ		
展	2. Routine Work ・ペアトレーニング (インプット, 対話)	8	■即興で対話をする。
	3. ゴールの確認 ・単元のゴールと本時のねらいを確認する。 ・インタビューの人物・これまでの背景などをインタラクティブしながら確認する。	2	■本時の活動の目的・課題を把握する。
「なりきりインタビューをしよう～インタビュー記事を参考に項目を考えよう～」			
展開	4. Step1 Watching (インタビューの内容確認) ・インタビューを視聴する。 ・内容確認をする (人物・話題・質問内容)	4	
	5. Step2 Reading (インタビュー記事の読み取り) ・インタビュアーの視点に立って記事を黙読する。 ・相手の考えや思いを引き出すためにどんな工夫がされているかをさがし抜き出す。 【情報からの導入 Follow-up question Response 等】 ・なぜその文を抜き出したかをメモする。	5	■視点を絞って、英文を読む。
	6. Step3 Sharing ・気づきやどんな工夫があったかを交流する。(全体)	5	
	7. Step4 Thinking 【インタビューの項目立て】 ・インタビューの項目を考える。(メモ) 《対象は自分のなりきる人物をイメージ》 ・インタビューの流れを意識しながら個人練習する。	6	■相手の想いや考えを引き出すインタビューの流れがどのようなものか考え、練習をする。
	8. Step5 Practice 【Role Play】 (ペア) ・Step4 で考えたことを意識しながら、インタビューを行う。《インタビュアーはICを活用》 ・インタビューに答える人は自分になりきる人物として答える。 ・役割を交換する。 ・1度目のインタビューを聞いて、修正する。 ・修正をもとに、2回目のインタビューを行う。	10	■今持てる最大限の英語で表現する ■インタビューで即時に反応する。 ■学びの自覚①
終結	9. Step6 Reflection (インタビューの振り返り) ・2回目のインタビューをインタビュアーの視点で聞いて、振り返りを行う。感じたこと・次への課題、意識したいことを、振り返りシートに記入する。	3	■学びの自覚②
終結	10. 次時の確認 ・次時ではインタビューをされる側の視点に立ち、インタビュー記事を深く読むことを確認する。	2	
	11. あいさつ		